

## 1型糖尿病の診断に

# 抗GAD抗体

監修：新潟県立大学健康栄養学科特任教授  
長岡赤十字病院糖尿病内分泌代謝センター  
鴨井 久司

**糖尿病と診断したら、1年に1度は測定することをおすすめします。**

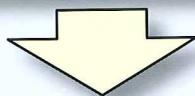
## 意外に多い一見2型糖尿病なのに、実は1型糖尿病

2型糖尿病でも抗GAD抗体は約5%陽性になると言われています。

一般的に1型糖尿病患者は、中年発症・やせ形が多いと言われていますが高齢発症や肥満型等など典型的な2型タイプの症例もあります。また、抗GAD抗体陰性の2型糖尿病から抗GAD抗体陽性の1型糖尿病に移行する例も報告されています。

### 1型糖尿病を疑うポイント

- ◇ 血糖コントロールが突然悪化した
- ◇ 内因性インスリン分泌能が低下した
- ◇ 他の自己免疫疾患(甲状腺疾患等)を合併している



## 糖尿病は、型に合った治療を行うことが重要です

### 糖尿病の診断に用いられる主な検査

抗GAD抗体、抗IA-2抗体、インスリン抗体、血糖値、C-ペプタイド(CPR)、インスリン(IRI)、ヘモグロビンA1c

### 1型糖尿病の治療法

インスリン療法：インスリン分泌能が低下している例がほとんどで、インスリン療法を初期に用いることが多い。

SU剤やグリニド系薬物は膵臓の疲弊を早めるので避けるようにいわれています。

\*患者様の症状に応じて適切な治療法を選択してください。

### 2型糖尿病の治療法

食事療法：食事の乱れに起因する血糖コントロール不良も多い。

SU剤：長期投与により効果が薄くなることがあります。  
(二次無効)

インクレチン製剤：インスリン分泌能のない1型糖尿病患者への投与は禁忌となっています。

\*患者様の症状に応じて適切な治療法を選択してください。

## 抗GAD抗体が陰性から陽性に転化した例

【症例1】64歳、男性。1999年健診で高血糖を指摘されたが放置。2003年初回教育入院し、メトホルミン内服で治療(抗GAD抗体は陰性)。2005年橋梗塞を発症し、インスリン導入(混合インスリン製剤2回打ち)。2008年4月下旬より吐き気、食思不振で、2008年5月糖尿病性ケトアシドーシスで緊急入院。入院後、抗GAD抗体が陽性で1型糖尿病と診断した。

【症例2】50歳、男性。2001年健診で高血糖を指摘されたが放置。2002年初回入院。グリメピリド3mg内服で退院(抗GAD抗体陰性)。2003年頃から血糖コントロール不良で、混合インスリン製剤2回注射の開始。2008年2月抗GAD抗体陽性で、1型糖尿病と診断し、強化インスリン療法を開始。

2例とも、初め抗GAD抗体が陰性であったため2型糖尿病と思われていました。しかし数年後に急激な血糖コントロール不良を起こし、再度抗GAD抗体を測定すると陽性化していた為、1型糖尿病を併発・合併していたと判明しました。

長岡赤十字病院データ

抗GAD抗体が陰性であった場合でも、急激な血糖コントロール不良時には再度検査をすることが大切です。

## 糖尿病と診断したら、1年に1度は測定することをおすすめします。

\*測定する際は、すでに糖尿病の診断が確定した患者に対し「1型糖尿病の診断の疑い」と診療報酬明細書の適用欄に記載する必要があります。



糖尿病と診断されたら抗GAD抗体を測定するのはなぜ？



抗GAD抗体は、発症時から経過とともに抗体価が低下して陰性化するといわれています。正しい診断をするために、糖尿病と診断されたらすぐに抗GAD抗体を測定することが重要です。



治療法を変更する際に抗GAD抗体を測定するのが重要なのはなぜ？



抗GAD抗体が陽性の場合、SU剤は膵臓の疲弊が早まる可能性があるため、インスリン療法を行うことが重要です。インスリン分泌能の検査等と併せて、抗GAD抗体も治療方法選択の指標として測定することが望まれます。

### 検査要項

検査コード	検査項目	材料	検体量	容器	保存条件	所要日数	検査方法	基準値	診療報酬区分番号	保険点数	保険収載名称
0187	抗GAD抗体	血清	0.3mL	A1→A2	冷蔵	2~5	RIA法	1.5未満 U/mL	D008-13	140	抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)

※抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)は、すでに糖尿病の診断が確定した患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定できる。

※九州・沖縄地区は所要日数3~6日となります。